



令和4年2月8日

当別町長 後藤 正洋 様

特定非営利活動法人ゆめの種子トープ

理事長 堀江 三千代

(石狩郡当別町樺戸町 106-21

町立当別小学校「跡」の利活用について（要望）

本町地区の子どもたちの教育の場として、また中心街の公共施設として長く町民に親しまれてきた当別小学校は、今年4月の小中一貫学校の開校により、廃校になってしまいます。

私たちは廃校となる小学校を敷地も含め、「生涯学習施設」として幅広い町民の教育活動に活用するとともに、公共的なスペースとしてこれを再利用していくことがもっとも望ましいと考えます。またこういったことは、町財政における経費の節減や、環境への配慮にもつながるものと確信します。

学校跡というしっかりとした建物や大きな敷地を壊さず転用・転売せず、将来にわたり教育目的に利活用することは、今後、どれほど多くの町民の未来に貢献するか計り知れないと考えます。まさに、かけがえのない「宝」です。

社会的なインフラがきわめて脆弱な当別町の現況を打開するために、小学校跡の利活用について、以下のとおり要望するとともに、町民間において十分な「議論する場」の設置も併せて要望します。

要望事項

- 1 役場庁舎「新設構想」における予定地議論から、当別小学校を候補地としないこと。
- 2 図書館や総合博物館、児童館、体育館などの機能を兼ね備えた生涯学習施設として当別小学校跡を活用すること。
- 3 現在、当別小学校は地域の指定緊急避難所、指定避難所であるが、引きつづき地域住民の安全を確保する公共の場として確保すること。
- 4 町民の「足」を確保するため「ふれあいバス」の重要度は高まるばかりである。その「拠点ターミナル（バスセンター）」として学校跡敷地を活用すること。